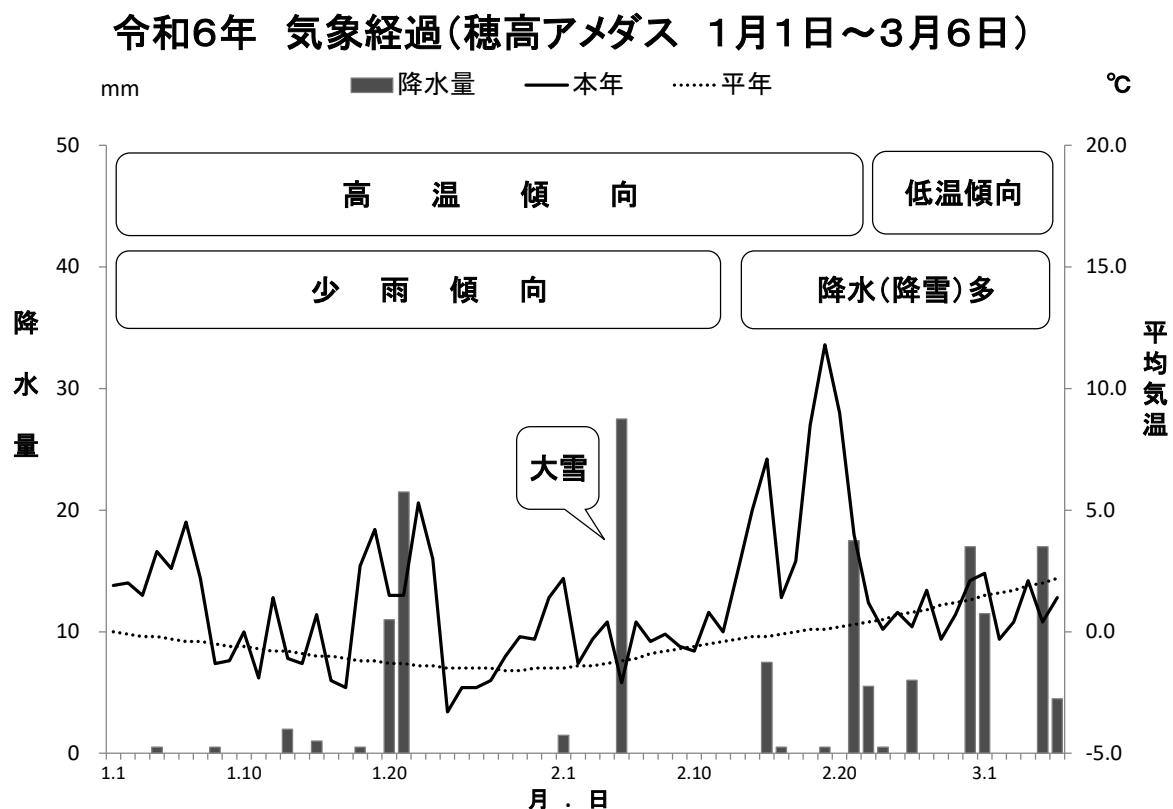


令和6年 作物技術情報第3号

(麦の1回目の追肥作業と、水稻の浸種作業の注意事項について)

1 気象状況



- 1月から2月中旬までは高温傾向（特に2月中旬は著しい高温）で推移しましたが、2月下旬以降は低温傾向で推移しています。
また2月中旬までは降水量が少ない状況でしたが、2月下旬以降は降水（降雪）量が多い状況となっています。
- 3月7日気象庁発表の1か月予想では、平均気温は平年並みか高いと予想されています。

2 現在の麦の生育状況と一回目追肥の注意事項

- ・ これまでの高温傾向の影響で、2月初旬の生育状況よりも生育は進んでいます。今後も高温傾向が予想されているので、麦の生育はさらに早まることが予想されます。
- ・ 2月中旬の著しい高温の影響で、10月下旬の早播圃場では茎立ちが始まっています。あまり早く茎立ちして幼穂が形成されると低温障害を受ける可能性があるため、今後の気象状況や生育状況には注意が必要です。
- ・ すでに追肥作業が始まっていますが、追肥時には再度生育状況を確認し、生育過剰の圃場では追肥量をやや控える、追肥時期をやや遅らせる等の生育にあった追肥をお願いいたします（追肥量や追肥時期の目安は技術情報2号をご参考下さい）。

3 水稻の浸種～催芽作業について

- ・ 水稻の浸種作業の時期が近づいています。浸種作業は育苗の重要なポイントです。基本事項を守り、育苗に向けた種子の準備を進めるようお願いいたします。別添「水稻種子の取り扱い」もご参考下さい。
- ・ 今後は高温が予想されています。このため例年通りの浸種～催芽管理を行うと思ったより早くから芽が動き、伸びすぎてしまう事も予想されます（一昨年がこの様な年でした）。浸種～催芽作業にあたっては、今後の気温に注意し、芽の動きをよく観察して作業を進めるようお願いいたします。
- ・ また、平成22年や令和5年のような高温登熟条件下で生産された種子は休眠が深く、平年より発芽勢が劣ることがあります。松本農業農村支援センターの行った発芽調査の結果では、松本管内の採種圃場で生産された令和5年産種子で、発芽勢が劣る事例はありませんでしたが、基本事項を守り丁寧な管理をお願いいたします。
- ・ ここ数年、大粒品種（特に酒米）で、発芽不良や出芽ムラが発生する事例が報告されています。この様な品種の浸種～催芽作業にあたっては特にご注意ください。

- ・ 前年と同じに機械のセッティングをしたにも関わらず、催芽ムラや発芽不良といったトラブルが発生する事があります。

前年と同じセッティングにしても、催芽機や出芽機が正常に動作している保証はありません。シーズンの開始時には必ず試し運転をして、温度の誤差がないかを必ずチェックしてから、本作業に入るようにお願いします。

シーズン中は温度計を設置して毎日記録することもトラブル防止につながりますのでご検討ください。